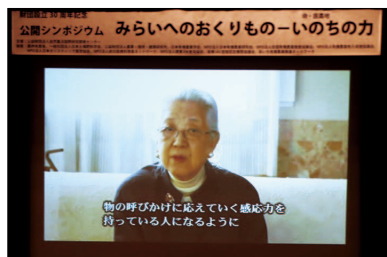


財団設立30周年 記念シンポジウムを開催



辰巳芳子氏の
ビデオメッセージ



パネリスト 福島徹氏



パネリスト 上野秀人氏



コーディネーター 岩石 真嗣



日本ホリスティック医学協会名誉会長の
帯津良一氏（基調講演①）



北里大学名誉教授の陽捷行氏（基調講演②）

今年度、当センターは設立30周年を迎え、それを記念したシンポジウムを、2月27日、東京都中野区のなかのZERO大ホールにおいて開催し、消費者や農業関係者など900人余が集いました。

「みらいへのおくりものーいのち（命・医農地）の力」をテーマに行われた本シンポジウム。伊藤理事長の挨拶の後、来賓を代表して元農林水産大臣の谷津義男氏が挨拶に立ち、日本のこれからの農業を支えるためにも、自然農法と有機農法の役割がますます重要になると力説しました。

次に、日本ホリスティック医学協会名誉会長の帯津良一氏が「いのちの力」を引き出す生き方、食事と心の掃除で病気が治る

「と題して基調講演。50年間、多くの死に瀕したガン患者と接する中で、肉体を越えて永遠に続くいのちそのものを積極的に育んでいく「攻めの養生」の重要性を痛感。そのためには、安全な食材を摂ることをはじめ、心がときめくことを体験し続けることや、呼吸法などを通して大自然のいのちの力を自分の生命場に取り込むことが大切であると訴えました。

続いて、北里大学名誉教授の陽捷行氏が「土の力」18cmの奇跡「土壌が支える人の健康」をテーマに基調講演。人類が生きていくために使える土壌の厚さは、地球の陸地に均等にならずと、わずか18cmであり、1cmの土壌ができるのに千年を要することを紹介。また、米や野菜は土壌からできることや、食肉も動物





帯津良一氏による
基調講演



室井邦彦参議院議員
の祝辞(祝賀会にて)



パネルディスカッション



元農林水産大臣
谷津義男氏の挨拶

が土壌から生育する草を食べて
生きていることに言及。それら
を食べる人間は土壌からできて
いると指摘し、人間の健康が、
土壌と深く関係していることや、
私たち人類が、その上で生かさ
れていることを強調しました。

きれいな土を大切に

その後、料理研究家の辰巳芳
子氏による自然農法と食に対し
てのビデオメッセージを上映。
辰巳氏は、土や野菜が語りかけ
ているものを感じられる人にな
ることの大切さに言及。自然農
法の創始者が土を汚さずに育て
ることを唱えられたことにふれ
るとともに、そのようにしてで
きた作物の質が違うことを指摘
し、「岡田先生の仰ったその教
えは大切にしていたきたい」と
訴えました。

最後に帯津氏、陽氏の他、(株)
福島屋代表取締役会長の福島徹
氏、愛媛大学農学部教授の上野
秀人氏、コーディネーターの当
センター岩石普及部長が加わ
り、パネルディスカッションを
行いました。

まず、福島氏から、「安全・
安心で美味しい」というコンセ

プトのもと、有機農産物をはじ
め消費者のニーズに基づいた食
べ物を積極的に販売している取
り組みが報告され、続いて上野
教授が、大学の農業実習で、で
きるだけ有機肥料と無農薬で栽
培してもらい、学生に「野菜の
本当の味」を体感してもらって
いることなどを披露。その後、
これからの農業や食生活、健康
を育むあり方について、熱心な
討論が行われました。

約80人が集い祝賀会

会場を変えて行われた記念祝
賀会では、自然農法や有機農法
の普及に関わる来賓や実施者、
元職員など約80人が出席。

有機農業推進議員連盟の事務
局長を務める室井邦彦参議院議
員、小川勝也参議院議員をはじめ、日本有機農業学会会長の澤
登早苗氏、設立団体である世界
救世教いづのめ教団の白澤責任
役員から祝辞をいただきました。

次に、(公財)農業・環境・
健康研究所代表理事の木嶋利男
氏が乾杯の音頭を行い、その後
有機農業参入促進協議会代表の
山下一穂氏の挨拶もあり、参加
者は懇談を深めました。